

令和7年度 第6回大台町立小学校のあり方検討委員会 議事録

令和7年12月12日（金）13時30分～
大台町役場 中会議室

出席者：竹内委員長、齋藤副委員長、西村委員、上瀬委員、森井委員、松崎委員
事務局：福岡教育長、山下子ども教育課長、門野係長、小野主事

1. あいさつ

大台町立小学校のあり方検討委員会 竹内委員長
大台町教育委員会 福岡教育長

2. 小学校及び保育園 PTA 役員等との懇談及び区長会代表との懇談について（報告）

アンケートの中で、『学校が2校になるとしても、結局は1校になる。少子化対策や、子どもを増やすような施策がない限りは減っていく一方だ』という趣旨の意見が多くあったように感じた。自分の経験としても、以前、宮川村が合併したときに、茂原に小学校・中学校・高校が集約された。そのとき、他の地域の方からは『自分の地域から子どもの声が聞こえなくなって寂しい』という声があったが、何年も経つと、そうした声はいつの間にか聞かれなくなった。合併に反対していた人も、高齢になって状況を受け入れていった面もある。

今の太台町も、子どもが少ないという現実があり、そう考えると、最終的には2校より1校かなと思う。いずれそうなるだろうと。ただ、小学校の場合は、通学距離が最大の課題だと感じる。例えば、宮川地域からだと大杉が一番遠くなる。スクールバスの運行方法などを工夫して、遠隔地域には直行便を出すなど、通学時間を少しでも短くすることを考える必要があると思う。

三瀬谷の人たちは『統合したときは三瀬谷に学校が来るはずだ』という意識があったように感じる。昔の宮川村の統合のときは、学校は茂原に集約されて、今振り返れば『あれでよかった』と感じている。ただ、その当時から50年先までは読めなかったというのが正直なところで、今回も50年先までは分からないというのが本音。

アンケートを見ていると、『とりあえず2校』という言葉が多く出てくる。本音としては、『最終的には1校になるだろうが、現段階では2校で』という感覚なのかなと思っている。通学のことを考えると宮川は距離の課題が大きいですが、それがクリアできれば、1校にするという考え方もある。ただ、保護者の意見だけにすべて寄せるわけにもいかず、区長や地域の感覚も踏まえながら、最終的には広い視野で決める必要があると感じている。

複式学級についても、昔は教員数が十分に確保されており、複式をきちんと回せていた。しかし、今は非常勤講師が多く、2人で1人分というカウントになってしまうなど、実際に複式を持つとなると現場はかなり厳しい。

保護者へのアンケートの自由記述を、一つひとつテキスト化して、どんな言葉が多く出てくるかを見てみると、『学校』『統合』『地域』といった言葉が多かったのは当然ですが、『反対』という言葉が出てくる記述もあった。

ただ、文脈を読んでみると、『統合に反対』という意味ではなく、『これまで何度も議論だけしてき

て先送りになってきた。もうこれ以上後回しにせず、決めるべきことは決めて先に進めてほしい』といった趣旨で使われているものが多く、『合併反対の人の声ばかりを気にせず進めるべきだ』という意見もあった。明確に『統合に反対です』と書かれていたのは、1件だけだった。

全体としては、『いずれは統合しなければならない時期が来ているので、タイミングを見て、早めに進めてほしい』という感覚が保護者の中にはあるのかな、という印象を持った。

また、『通学』『バス』『距離』『時間』という言葉の出現回数が多く、通学の問題が、大きな心配事になっていることも分かった。

従来よく言われていた『川添・日進』『三瀬谷・宮川』という2校案ではなく、『日進・川添・三瀬谷で1校』『宮川は当面1校』という形が、現実的なのではないかと感じている。ただし、その場合でも、将来的に宮川も受け入れられるだけの校舎規模にしておく、という考え方が必要。

一方で、宮川側から見れば、距離的な条件はやはり大きな問題で、今の段階では『宮川の校舎を当面残し、他の3校を1つに』というイメージで見ている。

前回、保護者の皆さんの声を直接聞く機会を設けてもらったことは、本当に良かった。その後、学校の行事に参加した際に、保護者の方から『数年前にアンケートを出したときは、統合に対するストップがかかったのに、そこからずいぶん先延ばしにされてきた』という話を直接聞いた。『なぜ今までずっとストップしたままだったのか』という不満の声も強く聞いた。

今回のアンケートや懇談を通じて、統合に対して前向きな保護者も多いことが分かった。ただ、その中でも『通学』に対する不安や負担感は非常に大きいと感じた。理想を言えば、子どもは歩いて通学し、道中でいろいろな発見をしながら育つのが一番いいと思う。しかし、現実的には難しく、バス通学が前提になる地域も多い。それに加えて、保護者自身も学校に足を運びやすい環境でなければなりません。1校に集約すると、保護者の学校参加が難しくなるのではないかと、という心配もアンケートから読み取れた。

『子どもが少ないから1つにする』だけではなく、『この大台町の地域性をよく考えた上で、どういう姿が子どもたちにとって良いのか』という視点で考える必要があると思う。

結果として、小学校4校が2校になる形が、現段階では妥当ではないかと感じている。

アンケートでは『安心して学べる環境』という表現が多かったように感じた。

その『安心』の中には、「校舎の老朽化への不安・災害時の安全性・教員配置の安定」などが含まれていると感じた。

保護者としては、まず『安心して子どもを通わせられること』が前提にあって、その上で『学力をしっかりとつけてほしい』という順番なのだろうと思う。

3. アンケート結果の分析について

中学校に関する意見

中学校は、小学校以上に1校に統合する方向が良いのではないかと。

部活動の面でも、今はバレーや卓球など、できる種目が限られている。もう少し選択肢を増やしてあげられる規模が必要だと思う。

少人数の小学校から、いきなり何百人規模の高校に進学すると、そこにうまくなじめずに苦労する子どももいる。

中学校段階で、ある程度の規模の集団の中で生活する経験をさせておいた方が良いのではないかと。

ただ、小学校については、通学距離や地域ごとの事情があり、すぐに1校とはなかなか言い切れな

い。小学校は段階的に整理し、中学校は1校化の方向を見据える、という考え方もあると思う。

校舎・財政に関する意見

日進・川添・三瀬谷の校舎は老朽化が進んでいる。防災の観点からも、新校舎の整備は必要ではないか。

宮川小学校については、比較的新しい校舎であり、プールからの景色なども含めて魅力がある。できれば残したいという思いが強い。

他市町の統合事例では、新しい統合校を建てるのに30億円前後かかっているところもある。大台町の財政状況を考えると、新しい箱物を建てるのは簡単ではないが、安全性や教育環境を考えると、どこかでは思い切った投資も必要になる。

三重県内の他市町では、3校を1校に統合し、新校舎の整備に相当の費用がかかったという話も聞いている。災害対応型の校舎には国の補助もあるが、それでも町の負担は大きい。

答申に向けて

アンケート結果から判断すると小学校は3校を1校に、宮川小学校は残し、最終的には大台町で1校にしていけることが望ましい。アンケート結果も含め、児童数等を見て、今後の答申に向けて進めていく。

アンケート結果の公表方法について

アンケートの自由記述には、性別・年齢・小学校区を記載がある。このまま公表すると、特に児童数の少ない学校区では、どの家庭か特定されてしまうおそれがある。性別・年齢・学校区の情報削除し、意見の本文のみを公表するという形にしてはどうか。

個人が特定されないように配慮する必要がある。その上で、どのような意見があったかはできるだけ町民に共有すべき。

【公表方法】

町ホームページへの掲載は確実に。必要に応じて、広報紙に概要を掲載し、QRコードで全文を見られるようにすることも検討する。

「アンケートの結果はどうだったのか」と聞かれている住民もいるので、できるだけ早く分かりやすく伝える。

4. その他

① 次回、検討会の内容について

大台町における適正規模及び適正配置について（答申に向けて）

ご意見やアンケート結果の分析を踏まえ、事務局として案を整理し、次回以降、『大台町における適正規模・適正配置（統合の方向性）』について具体的な案を提示する。

次回、開催予定日 令和8年1月28日（水）13時30分から